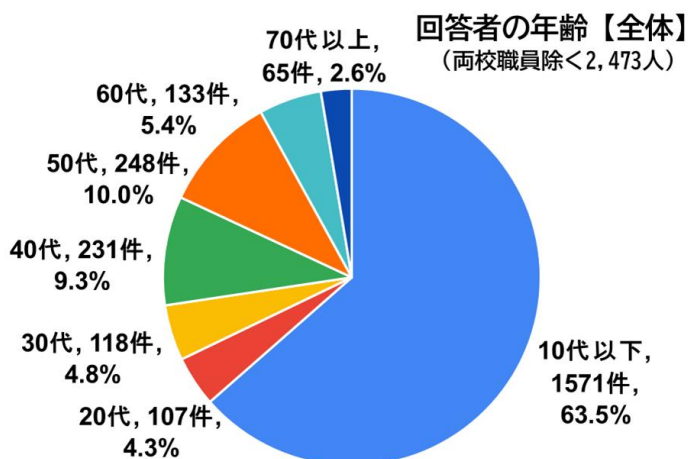
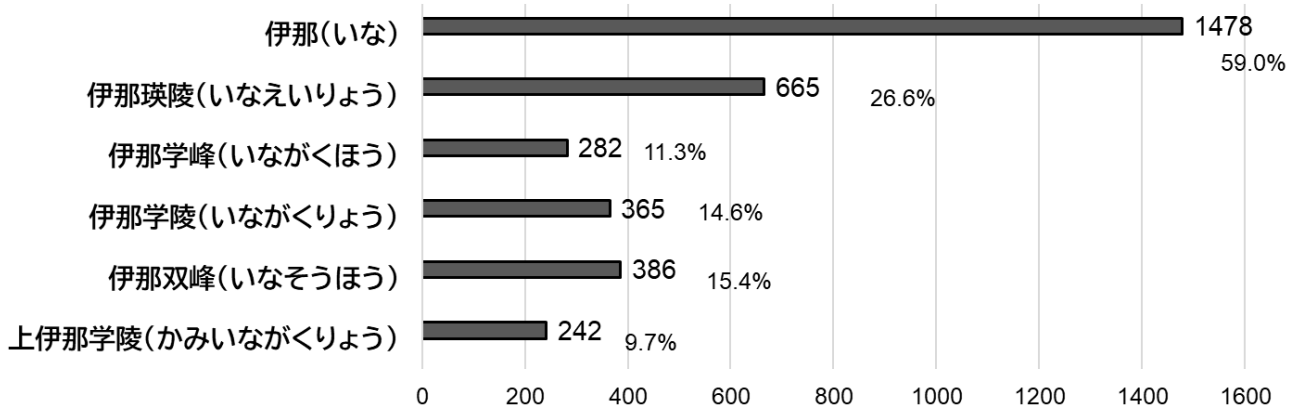


【伊那新校 校名選考】 二次選考での投票及び意見募集の結果

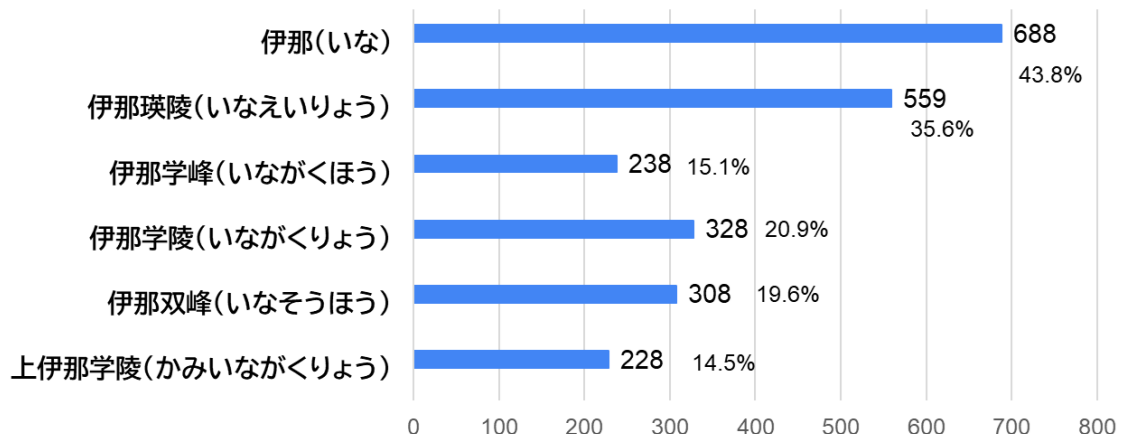
- 期間:令和8年(2026年)2月26日(木)~3月12日(木)
- 回答方法:応募フォーム 2,500件、郵送4件 合計 2,504件
- 全体集計

【全体】2,504件(懇話会構成員除く) 最大3つまで

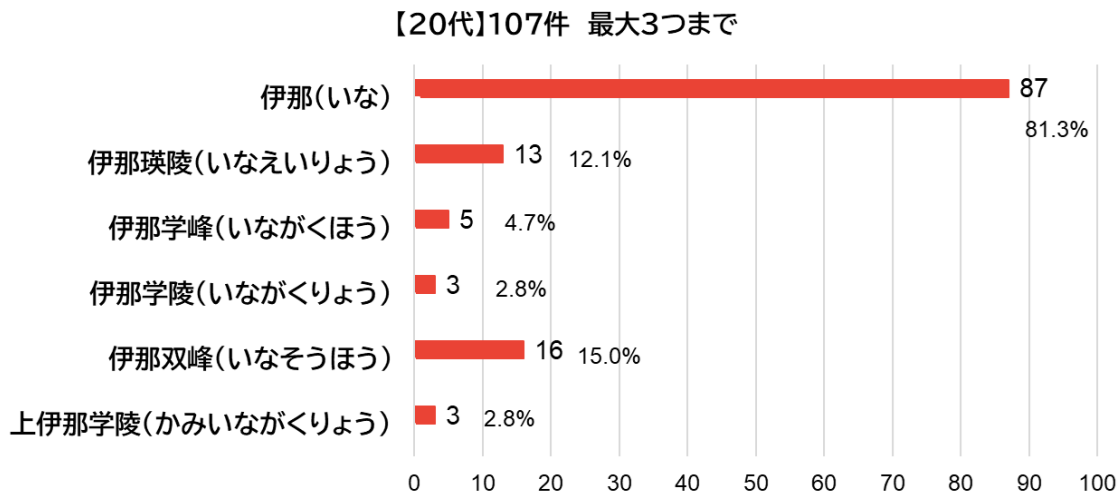


- 年齢別集計(2,473件の内訳) ※両校職員31人は年齢を集計していないので除く
- ◇10代以下(上伊那地域中学生、両校在校生など)

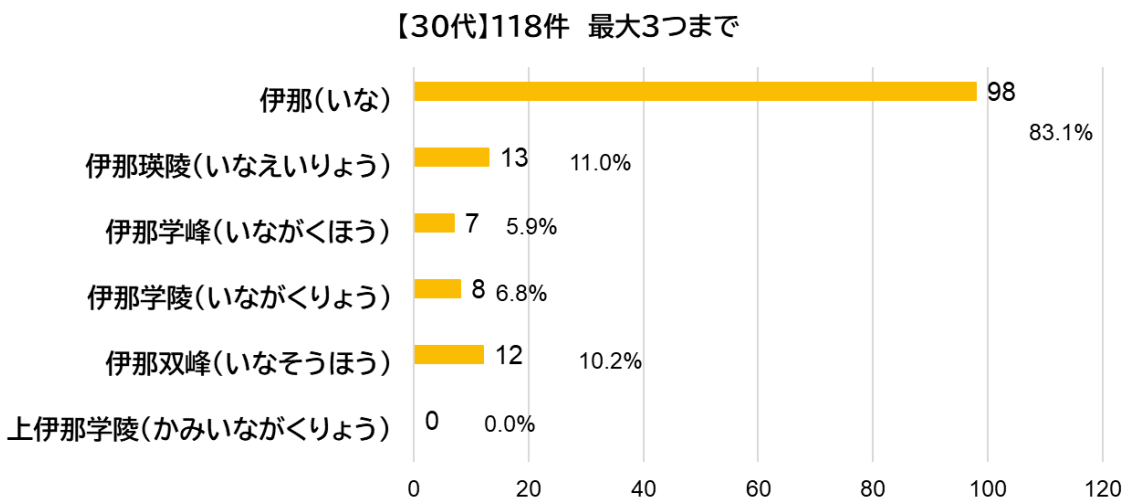
【10代以下】1,571件 最大3つまで



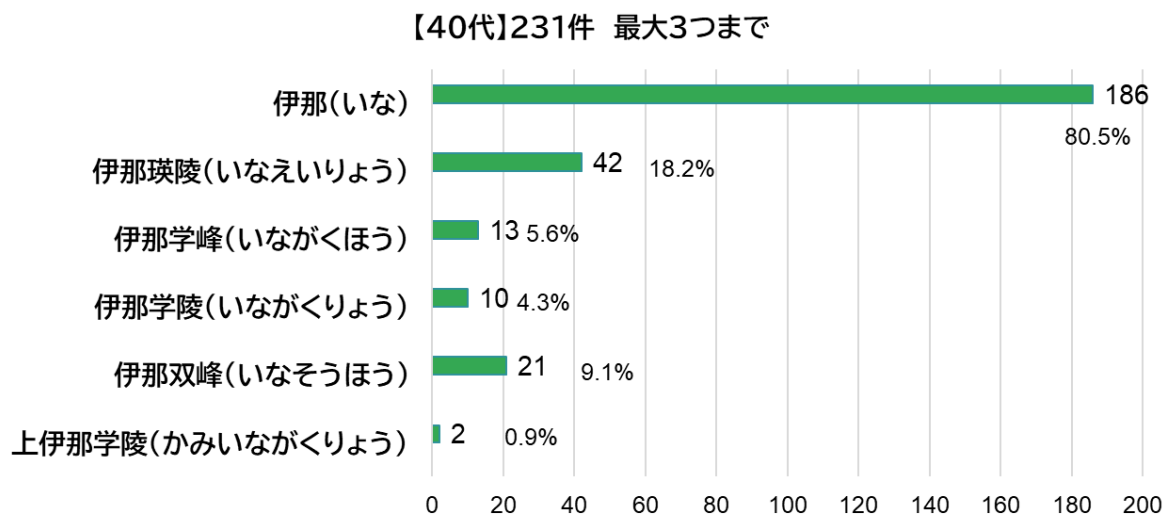
◇20代



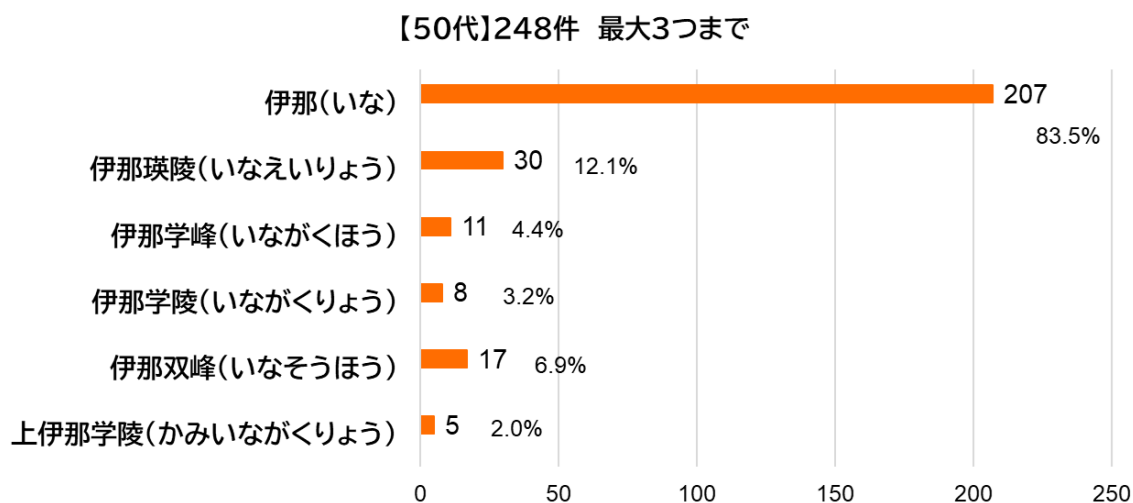
◇30代



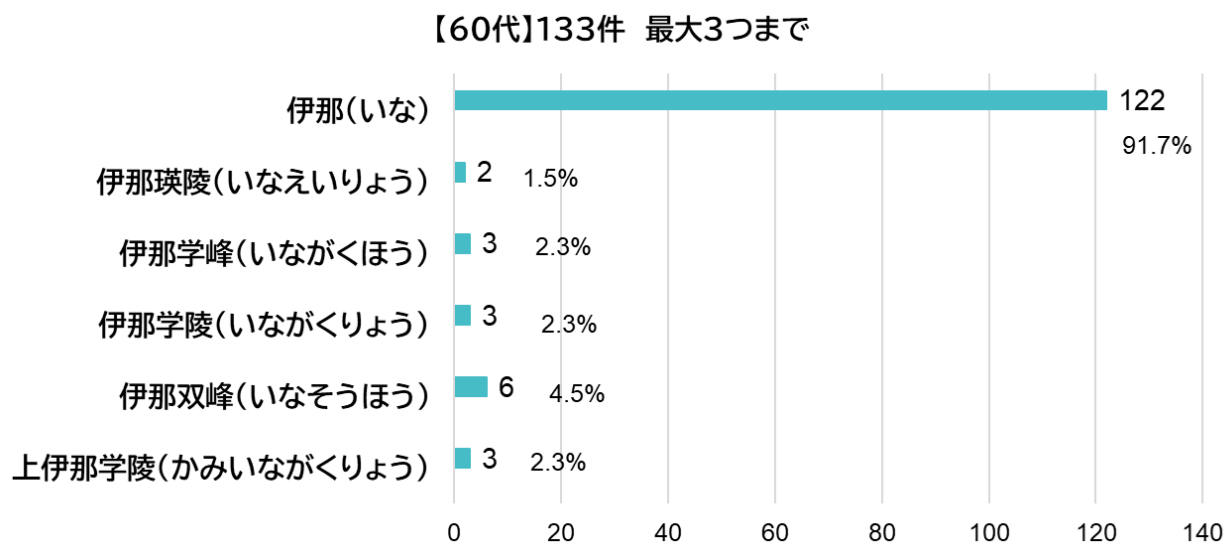
◇40代



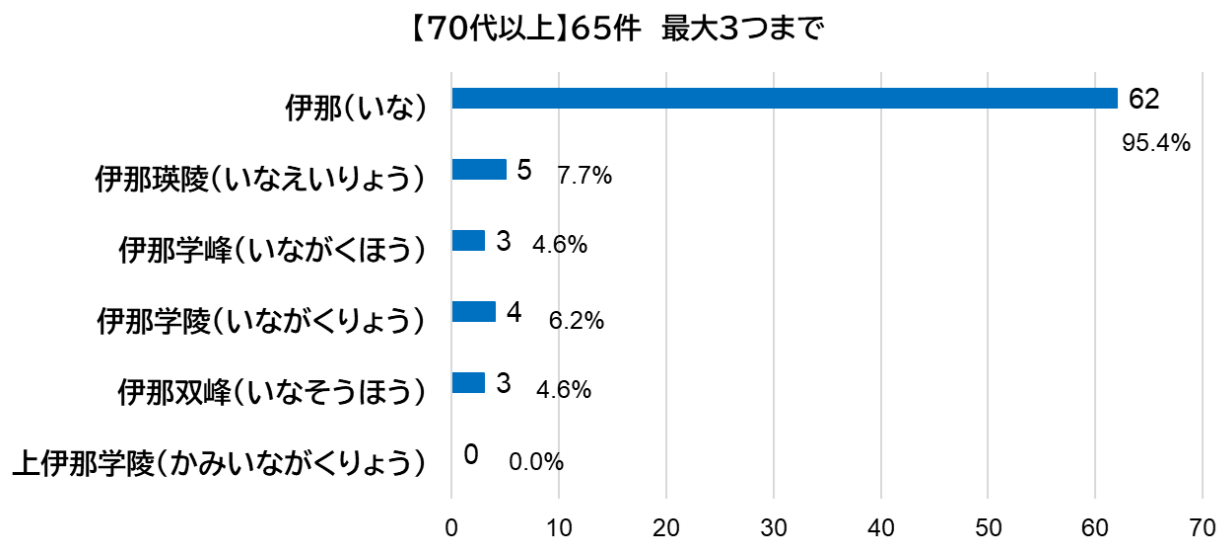
◇50代



◇60代



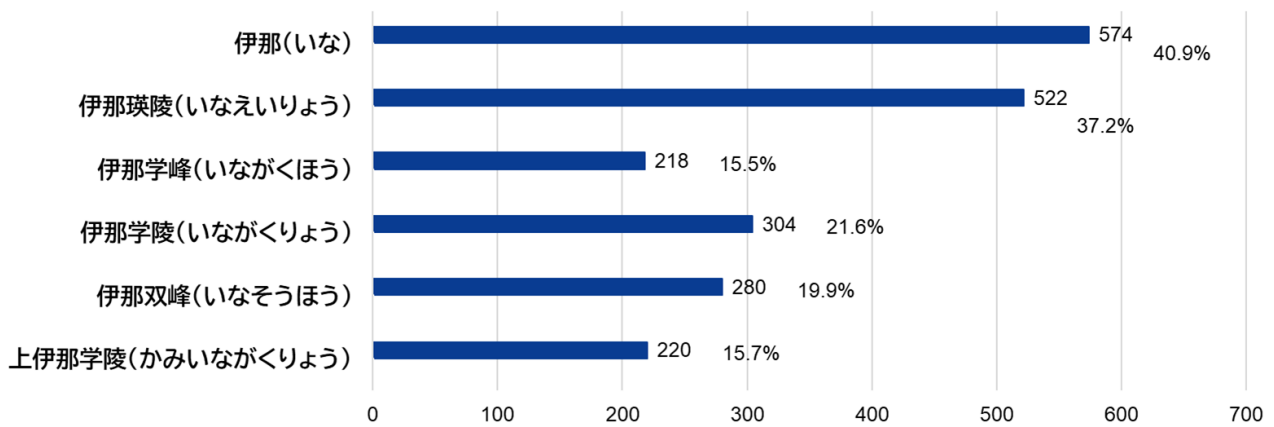
◇70代以上



●職業等別集計

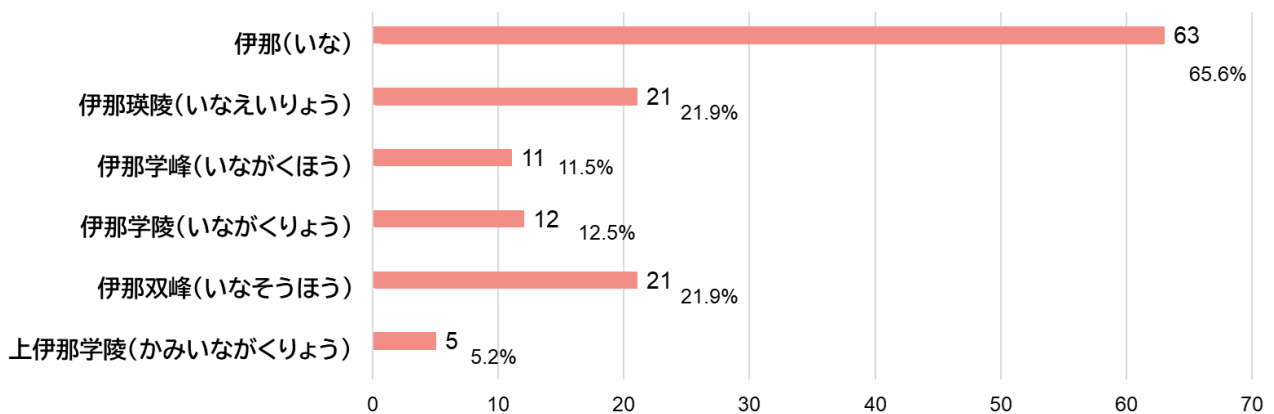
□中学生(上伊那地域中学1・2年生、在籍 3,087 人)

【中学生】1,405件(上伊那地域中学1・2年生)回答率45.5% 最大3つまで



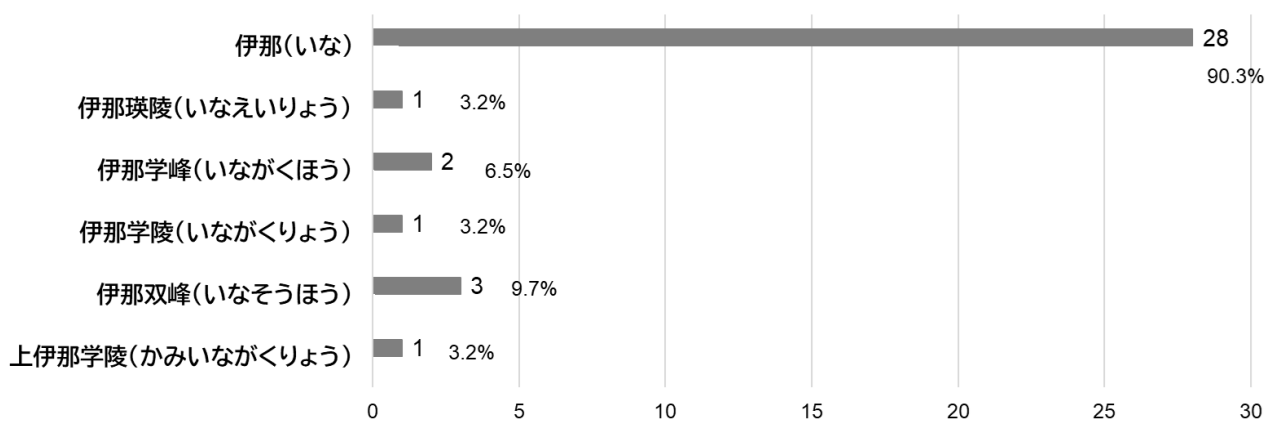
□在校生(両校在校生1・2年生、在籍 866 人)

【在校生】96件(両校1・2年生)回答率11.1% 最大3つまで



□職員(両校職員 132 人)

【職員】31件(両校)回答率23.5% 最大3つまで



●校名候補に寄せられた意見(要約)

伊那(いな)	
<ul style="list-style-type: none"> ・両校に共通する「伊那」を用いることで双方の卒業生や在校生が誇りをもって受け入れられる。 ・旧制の伊那中学校や伊那高等女学校という両校の歴史的ルーツに基づき、昔からの馴染みが深い。 ・シンプルな校名がかっこいい。短い校名は覚えやすく書きやすい。校名で学校の性格を定義しすぎず、生徒たちが自由な発想で新しい歴史や校風を積み上げていってほしい。 	
伊那瑛陵(いなえいりょう)	
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の並びがきれい、美しく賢そう。かっこいい。 ・県内の他校と音が被らない「瑛陵」を組み合わせることで、地域らしさと新設校としての独自性を両立させている。 ・アルプスを象徴する意味合いや「未来を切り開く」「希望に満ち溢れた」といった名前に込められた由来に共感できる。 	
伊那学峰(いながくほう)	
<ul style="list-style-type: none"> ・「教育の頂点を目指す」といった、高い意識を表現している。「学」の字が入ることで、学ぶ意欲や知的な印象を直感的に与えられる。 ・伊那谷を象徴する2つのアルプスや三峰川を連想させる「峰」という漢字が、地域の景観に合致している。 ・「未知への旅に飛び立つ」「高く飛翔する」といった、新校としてのチャレンジ精神や、生徒たちが未来へ羽ばたくイメージが込められている。 	
伊那学陵(いながくりょう)	
<ul style="list-style-type: none"> ・「知の拠点」を感じさせる高い専門性と品格があり、両校が築いた「知の伝統」を継承し、結集させる印象がある。 ・「アルプスの山々に抱かれた」「高台にある学び舎」といった所在地の風景に、言葉の響きが非常に合っている。 ・「伊那学(いながく)」などと略した際の語呂が良く、リズムや響きが「かっこいい」と感じる。 	
伊那双峰(いなそうほう)	
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統ある2校が合流した歴史を「双」という一文字に込めることで、双方の伝統や誇りを対等に継承・内包していると感じる。 ・中央アルプスと南アルプスの2つの峰に囲まれた伊那谷特有の地形を「双峰」と表現することに親近感が持てる。 ・2つの高峰が並び立つイメージから、生徒たちが互いに高め合い、さらなる高み(峰)を目指して進学・成長していくという教育的な願いが込められている。 	
上伊那学陵(かみいながくりょう)	
<ul style="list-style-type: none"> ・伊那市にとどまらず「上伊那全域」の教育の象徴であるという広域的な視点がある。 ・「学」の文字が入ることで、知的な印象を直感的に与える。 ・「上伊那から世界へ」というグローバルな志や、未来を切り拓く力を養成するという校名に込められたメッセージに共感できる。 	